

科目区分：教職に関する科目，科目名：教育相談研究

担当教員：信原孝司，登録学生数：16名

グループ発表と小レポートのフィードバック等を生かした授業実践

教育実践総合センター・信原孝司

1. 授業の概要

本授業では、教育相談の基礎を学び、更には教育相談の重要テーマ「不登校」「いじめ問題」「保護者への援助」「教師のメンタルヘルス」等、多様で深刻な問題への理解を深め、教師の専門性について考える中で、児童生徒へのより良い支援のあり方を修得こととしている。また、授業の到達目標としては、以上の多様な教育問題に自発的・自立的に取り組めることとした。

まず授業開始にあたり、シラバスをもとに授業予定を学生に周知している。これは、学生が前期の見通しを持って授業に取り組み（予習し）、関連した項目の復習に取り組みやすくなることを意図している。以下は今年度の講義内容である。

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 カウンセリングの専門性 1
- 第 3回 カウンセリングの専門性 2
- 第 4回 テーマ 1：不登校
- 第 5回 テーマ 2：いじめ問題
- 第 6回 テーマ 3：反社会的問題行動
- 第 7回 テーマ 4：児童虐待と心的外傷
- 第 8回 児童生徒の心理を考える I（映画）
- 第 9回 テーマ 5：保護者への援助
- 第 10回 テーマ 6：教師のメンタルヘルス
- 第 11回 紙上応答訓練 1
- 第 12回 児童生徒の心理を考える II（映画）
- 第 13回 紙上応答訓練 2
- 第 14回 ロールプレイ
- 第 15回 振り返り・レポート提出

2. 授業の方法と形態

授業は出来るだけ担当者と学生との双方向の授業となるよう心掛けた。具体的には、

I. 学生からの意見・感想・質問を小レポートとして毎回提出させ、次回授業冒頭で要約や質問への回答をフィードバックする。

II. 授業テーマに沿った映像を援用して、学生の印象に残るように工夫する。

III. 学生が授業に主体的に取り組めるように、グループ発表・討論形式も取り入れる。

IV. 演習形式を用いて、体験学習も取り入れる。等である。

I では、出席カード（A5サイズ）に質問・感想欄を設け、小レポートとして講義の最後の5分～10分で学生が記入。それらを次回授業の冒頭で担当者から小レポートの要約・感想を述べ、質問には出来限り応えた（取り上げる学生に偏りが無いよう配慮した）。学生からは「前回の復習になって良かった」「他の学生の意見が聞けて参考になった」等の声があった。

II では、授業テーマに関連したビデオ映像を援用した。ビデオ映像は授業の最後にまとめとして視聴した（10分～20分程）。学生から「理解が深まった」「印象に残りやすい」等の声があった（8、12では、授業の振り返りとして映画を用いた）。

IIIは予定表の4～7、9、10がそれに該当する。学生が興味関心のあるテーマを自主的に選ばせ、それらをグループで調べ、レジュメを作成・発表し、全体でディスカッションした。例年、選択テーマの人気の偏りが課題であるが、学生からは「以前からの関心テーマに取り組めて良かった」「他専攻の人の別の視点を知れて良かった」「グループで取り組み、やりがいがあった」等の声があった（役割分担の難しいグループもあった）。

IVは、予定表4～7、9、10の発表中でのグループで考えたロールプレイ実施と、予定表11、13、14がそれに該当する。例えば、5ではいじめ問題のグループが考えてきた生徒と担任教師の相談場面を、学生達の前でロールプレイ（寸劇風に実施）する。学生には「いじめの深刻さが分かった」「教師の介入の難しさが身に染みた」等、新鮮な体験となったようである。

3. 総括 色々な授業方法と内容を盛り込みすぎた感があり、授業時間が足りず消化不良気味な回もあった。もう少し優先順位を検討し、授業内容・方法・形態に的を絞った授業実践を行いたいと考えている。